

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

H27 プラン策定数 46プラン

- <桑名市>
 - ・城南南部農地保全協議会：集客交流
 - ・三重県産青空市場：農産物の付加価値化
- <東員町>
 - ・(株)シグマサポートシグマファームとういん：障がい者雇用
- <木曾岬町>
 - ・(株)てしお夢ふぁーむ：障がい者雇用

- <四日市市>
 - ・野田耕作者の会：集落営農の強化
 - ・東阿倉川農家組合：集落営農の強化
 - ・市場町農家組合：集落営農の強化
 - ・四日市梨6次産業化グループ：農産物の付加価値化
- <鈴鹿市>
 - ・JA鈴鹿（施設園芸協議会）：産地の強化
 - ・徳田町ほ場整備準備委員会：集落営農の強化
- <朝日町>
 - ・ライスファーム・アグリ朝日：農産物の付加価値化
- <菟野町>
 - ・菟野町種子生産組合：産地の強化
- <四日市市、鈴鹿市>
 - ・高糖度トマト研究会：農産物の付加価値化
 - ・徳田町ほ場整備準備委員会：集落営農の強化
- <鈴鹿市・亀山市>
 - ・鈴亀農青クラブ：産地の強化

- <伊賀市>
 - ・伊賀・島ヶ原おかみさんの会：集客交流
 - ・(農)生玉ファーム：集落営農の強化
 - ・JA伊賀南部（女性加工部会笑みの花）：農産物の付加価値化
 - ・(農)プロファームいなぐ：集落営農の強化
 - ・一般社会法人 大山田農林業公社（農事組合法人）白鳳梨生産組合：農産物の付加価値化

- <津市>
 - ・ヤマギシWCS部会：産地の強化
 - ・美杉リゾート大麦栽培グループ：産地の強化
 - ・津イチゴ生産組合：産地の強化
 - ・(農)ニ子営農組合：集落営農の強化
 - ・NHK味菜クラブ：直売所
 - ・緑のネットワークにのみ：集落営農の強化
 - ・(一社)一志パラサポート協会：障がい者雇用
 - ・花と緑と水の里 農産物直売所：直売所



- <紀北町>
 - ・紀北農業者の会：直売所

- <松阪市>
 - ・JA松阪（梨研究会）：産地の強化
 - ・波瀬むらづくり協議会：農産物の付加価値化
 - ・(農)忘れ井の里市場庄営農組合：集落営農の強化
 - ・(株)十八共生会：集落営農の強化
- <明和町>
 - ・JA多気郡（いちご部会）：産地の強化
- <多気町>
 - ・多気町勢和地域資源保全・活用協議会：地域コミュニティの維持
 - ・ななほし会：農産物の付加価値化
- <大台町>
 - ・奥伊勢エゴマ倶楽部：農産物の付加価値化
 - ・弥起井倶楽部：集落営農の強化

- <紀宝町>
 - ・紀宝町レンゲ米栽培部会：農産物の付加価値化
- <広域>
 - ・花咲パン工房米粉普及推進組合：農産物の付加価値化

- <伊勢市>
 - ・打見営農組合：集落営農の強化
 - ・JA伊勢（トマト部会）：産地の強化
- <志摩市>
 - ・南張営農組合：集落営農の強化
- <玉城町>
 - ・アグリ果樹部会：農産物の付加価値化
- <南伊勢町>
 - ・大江青ねぎ振興：産地の強化
- <鳥羽市・志摩市>
 - ・JA鳥羽志摩（特別栽培米コシヒカリ部会）：農産物の付加価値化
- <伊勢市・玉城町>
 - ・伊勢ヒートポンプ導入組合：産地の強化

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	桑名市	城南南部農地保全協議会	桑名市城南南部地域の体験型農業による地域の活性化	地域内に約2haの水田が纏まっていますが、そのうちの約10%に水稲及び小麦が作付られるのみで、残りの90%は休耕地となっています。用水水源は地下水の汲み上げでポンプの老朽化により水量が不足状況にあり、加えて土質は砂質土壌であり、水稲栽培は困難な状況で、いずれは全面的な休耕地から荒地に変わっていくことが懸念されます。	搾油用向日葵と蕎麦の栽培 向日葵迷路と花の観賞イベントの実施 向日葵種子の収穫体験と搾油体験 蕎麦挽き体験や蕎麦打ちの体験 農産物の流通の促進	活用可能な水田をすべて活用し休耕状態を解消する。	H27.5
桑名	桑名市	三重県産青空市場	長島町のなばなを使った「ご当地お土産」で地域を元気に	当地域は県内でも野菜生産が盛んな地域となっているものの、高齢化により、栽培面積は減少傾向が続いており、特になばな栽培は減少が顕著です。地域には多数の観光客が訪問するものの、当地の土産物（目玉）がなく、購買意欲の高揚が十分ではなく、地元農産物の購買も高まらない状況です。	「なばな」を使った土産物の開発 業務用出荷の拡大	土産物第1弾の「なばなうどん」を開発する。 なばなを使った土産物を3品開発する。	H27.6
桑名	東員町	株式会社 シグマサポート シグマファームとういん	農福連携事業の継続に向けたシグマファームとういんの経営基盤の強化	当地域は、水田の高度利用が進む一方で、露地野菜や施設園芸の担い手が少なく、畑地の遊休化が進んでいます。また、畑地の土壌としてもよくないことから、土づくりをしながら、きめ細やかな肥培管理が必要です。障がい者雇用の経験があるものの、初めて農業経営に参入することから、地域の協力を得ながら、確実に収益につながる収穫を目指します。	生産量の確保と増加 人材育成	玉ねぎ 目標(H28) 目標(H30) ・栽培面積 50a 150a ・生産量 25t 75t 農作業マニュアルの作成。	H27.7

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
桑名	木曾岬町	株式会社 てしお 夢ふぁーむ	農福連携事業の継続に向けた株式会社てしお夢ふぁーむの経営基盤の強化・地域貢献	当地域は、水田の高度利用が進む一方で、施設園芸ハウスに隣接した小区画の水田等が担い手から敬遠され、多様な担い手による農地の活用が求められています。障がい者雇用の経験があるものの、初めて農業経営に参入することから、早期に栽培技術を習得、マニュアルを作成するなど、生産の安定と経営の継続・発展を進める必要があります。	生産量の増加、販売額の増加 人材育成 地域貢献	現状(H27) 目標(H30) ・生産量 25,440kg 26,997kg、 農作業マニュアルの作成。	H28.2
四日市	四日市市	野田耕作者の会	野田地区の水田農業を守る仕組みづくりの構築	米価の下落や機械投資の増大、後継者不足から今後もそれぞれの地権耕作者(担い手)単独では地区内の水田を維持管理していくことは困難になり、営農不可になった場合、水田が一時的に地権者に戻ることになるため、地区内の耕作者同士が水稻作業を相互に補完する仕組みづくりや地区外耕作者との連携が求められています。	野田侯爵者の会の設立 農地を守るための利用調整システムの構築 野田農家組合と連携した農地を守る仕組み作り 人・農地プランの見直し	毎年1回以上検討会を実施 作業料金表の作成および継続的な見直し 野田農家組合を通じた利用調整システムについて、野田農家組合へ提案	H27.4
四日市	四日市市	東阿倉川農家組合	東阿倉川の水田農業を守る仕組みづくりの構築	地区内の水田は地区外担い手への利用権設定が進んでおり、地区内の耕作者は年々減少しており、水田を預けた者は当組合を脱退しているため、共同作業や施設改修等を考えると将来地区として水田を維持管理していくことが困難になると予想される。	農地を守るための利用調整システムの構築 組合員の見直し ファブリダム等の施設改修についての検討 人・農地プランの見直し	組合規約の変更 作業料金表の作成 地権者の再加入 費用負担方法の決定	H27.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市	市場町農家組合	市場町の地域営農システムの確立と6次産業化	水田で2年3作のブロックローテーションが定着していますが、価格の下落により農業所得が飲み込んでいます。 水田の流動化が進む中、農村集落といえども地域住民と農業の関係が今後ますます希薄になっていくことが予測されます。	担い手への農地の集積 水田の高度利用の推進 大豆の6次産業化 住民等が参画した農村環境保全活動の実施	町内受託者への集積率 20% 43.8% 小麦、大豆による転作の推進 大豆を使った加工品に取組む 畔草刈りや水路清掃等について集落ぐるみで取組む体制を確立	H27.3
四日市	鈴鹿市	JA鈴鹿 施設園芸協議会	鈴鹿市トマト産地の活性化	経営環境の悪化に伴い、ハウストマト栽培の生産者は4名となっており、トマト産地の維持のためには新たに生産者の確保が必要です。 平成25年度に導入した黄化葉巻病耐病性品種の栽培において、品質、収量ともに安定しない状況となっており、安定生産のための栽培技術の確立に苦慮しています。	栽培技術の向上 品質向上 販路拡大	栽培講習会への参加 2回/年 各生産者の圃場巡回研修会 4回/年 目揃い会による規格の統一 1回/年 加工品等への取組	H27.3
四日市	菰野町	菰野町種子生産組合	菰野町種子生産部会地域活性化プラン	菰野町は農業が盛んな地域ですが、商業の発展や交通網の発達といった都市化とともに土地開発や道路建設が進み、農地面積が減少しつつあります。また、近年は深刻化する獣害と生産者の高齢化が大きな課題となっており、種子生産に関しても、非農家との共存を図りながら生産活動を継続するための対策が必要となっています。	水稻種子契約数量の確保 作業の省力化の検討 生産体制の維持及び後継者確保 農村環境保全への貢献	栽培技術の向上のためほ場巡回・講習会 視察研修会 実証ほを設置して効果を確認 種子GAPの実践	H27

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市、鈴鹿市	高糖度トマト研究会	トマトの高品質・多収穫生産技術の確立及び高付加価値販売への取組	単価の低迷、燃料価格の高騰、気象条件による生育不良など、経営環境が悪化してきており、栽培方法を多様化する傾向が強くなってきている。当研究会では、トマトの糖度を上げることで食味を重視した生産を行っているが、現状の方法では収量を制限してしまい、十分な収益向上につなげていない。	他地域で実績のある土壌分析のデータを活用した栽培管理方法をヒントに取組を行う。 ハウスごとに土壌分析のカルテを作成 専門家による研修会等による技術取得 研究会内の定期的な情報交換	10a単収 15t 20t 土壌分析会 0回 33回	H28.3
四日市	四日市市	四日市梨6次産業化グループ	6次産業化で四日市梨を元気にするプラン	当会は後継者が存在しているため、今後も長期にわたって産地としての維持・活性化が期待できる。現時点では100%青果で販売し順調であるが、長期的な視点に立った時、消費者ニーズも変化していることから、生産面の品質向上だけでなく6次産業化など新たな事業展開に取組み、商品アイテム等も増やし、収益率の向上とファンの確保について検討していく必要がある。	ドライ梨の試験加工 ドライ梨の試験販売 ドライ梨の加工を見据えた品種勉強会 情報発信 コラボ商品等の検討	ドライ梨の試験加工 ドライ梨の試験販売	H27
四日市	鈴鹿市	徳田町ほ場整備準備委員会	徳田町水田農業の基盤条件並びに営農体制の改善	小区画水田、狭隘農道を改善するため、ほ場整備の検討に入り、ほ場整備後の営農形態について検討をしています。いかに望ましい形で「営農が継続され農地が保全」されていくかが、課題となっています。	ほ場整備同意率の向上のための推進活動 ほ場整備後の営農形態の検討	ほ場整備同意率 100%	H28.1

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	鈴鹿市	鈴亀農青クラブ	次代をになう農業者の技術向上および地域貢献への取組	当クラブは50年以上続く伝統がある農村青少年クラブですが、近年はクラブ員数も減少し、活動が縮小しています。活動維持のためには、新規クラブ員の加入が必要で、新規就農者が加入したい魅力的なクラブであるために、これまで以上に協力する体制が必要です。	クラブ員数の増加 新技術の導入	クラブの広報活動 年1回 視察研修 年1回 新技術の検討・実証等 年1回	H28.3
四日市	朝日町	ライスファーム・アグリ朝日	ライスファーム・アグリ朝日地域活性化プラン	町内では工業の町への発展により急速に都市化が進みましたが、混在化による農業基盤の縮小や用排水路の老朽化、農業者の高齢化や後継者確保などの課題があり、農業生産の効率が低下する中で、よりいっそうの水田の整備・再編、担い手への農地利用集積を高める一方、増加する非農家に対し、農業への理解を深めるための対策も必要と考えています。	米の生産から販売まで 「みえの安心食材」表示制度の活用 取組の拡大・発展	減農薬栽培による米生産 米の商品化及び販売 「みえの安心食材」表示制度の認定取得 販路拡大 生産者募集	H28.3
津	津市	ヤマギシWCS部会	ヤマギシWCS部会「稲・麦WCSの生産性および品質向上による耕畜連携強化」	部会は担い手農家を中心に水田農業が発展してきましたが、昨今の著しい米価下落により、担い手ですら営農計画を立てることが難しく、地域の水田の維持も難しい状況になりつつあり、今後維持発展させていくには、さらなる担い手農家へのほ場集積や稲・麦WCS等による水田効率的利用が不可欠と考えています。	適期収穫による稲・麦WCS品質向上 新品種等導入による稲WCSの品質向上 稲・麦WCSの肥培管理改善 飼料稲専用品種種子の自家採種	部会検討会 年3回以上 稲WCSにおける極短穂品種作付面積 20ha以上 飼料稲専用品種種子の自家採種農家 5戸以上 稲・麦WCS作付面積 100ha以上	H27.9

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	美杉リゾート大麦栽培グループ	美杉町産原料のビールで地域を元気に！	農業従事者の高齢化や、担い手が極端に不足している現状で、それに伴う荒廃農地・遊休農地が増えて、獣害が後を絶たない状況が続いています。	衰退地域において、ものづくりを起点とした活動により、活気づいた町になることを目指します。 大麦の栽培 麦芽への加工 ビールの醸造	栽培面積 40a 収穫量 1,200kg	H27.10
津	津市	津いちご生産組合	イチゴ振興に向けた組合活動の充実	水田転作事業の一環としてイチゴ栽培がはじまりました。当地域は水田を中心に稲作や野菜を栽培していますが、就業機会に恵まれた地域であり、農家の子息は他産業へ多く流出し、担い手の高齢化が進んでいます。	計画的栽培の推進、栽培技術の向上及び統一生産物の共同販売と資材の共同購入の実施 栽培研修会、出荷販売会議の開催	栽培面積 85.5a 100a 他部会組織との交流 0回 2回	H28.1
津	津市	二子営農組合	担い手としての経営強化による地域の農地保全・活性化	農地を守る上で一番苦勞するのが畔草刈りであり、営農組合の構成員の高齢化や仕事の再配分および高齢者雇用という観点から農作業部分委託化を検討している。労働力のシェアによる地域への還元には、組合経営の安定が第一であるが、交付金等により経常利益が出る状況であり、安定的な収量向上を目指す必要があります。	組合員の労働軽減と雇用創出 営農組合の組織充実	小麦反収向上 80～120a 施設・機器の充実	H28.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	NHK味菜クラブ	安心・安全・新鮮野菜を地産地消で地域の活性化	一部の専業農家を除くと農業従事者の高齢化が進んでおり、後継者も育っていないため、地域の農地の保全や地域環境の持続、直売所の継続発展に課題があり、サラリーマン農家の主、奥さんの定年後の活躍の場、また地域生産者と消費者の交流拠点となるよう産直会を育てていきたい。	特産品を育てる 加工品の生産 集客促進	筍、キノコ類などの特産品の充実 加工品の検討、加工施設の検討 交流拠点づくり 生産会員の増員等、組織基盤の整備	H28.3
津	津市	緑のネットワークにのみ	新家地区の地域農業を守る仕組みづくりの構築	アンケート調査を行い、地域の営農者、土地持ち非農家の高齢化が進み、次の世代を担う営農者、担い手の確保や農業を営んでいない後継者が就農できる環境、今後見込まれる耕作放棄地の増加への対応などの課題があり、地域営農の組織化や地域の合意形成を図る必要があります。	農地を守るための共同活動、役割分担の検討 集落の説明会等による合意形成 「人・農地プラン」等の検討 次世代を担う営農者、担い手の育成	アンケート調査による営農者等の意向把握 集落での合意形成 地域での人材確保、掘起し	H28.2
津	津市	一般社団法人一志パラサポート協会	農業者と障がい者の協働による農業の活性化泳ぎ農業就労を通じた障がい者の社会参画促進	連携する農園では、水稻、施設イチジクの生産技術は安定していますが、障がい者に指導を行うスタッフには非農家出身で農業知識経験がほとんどない人があり、通所者についても農業未経験者が過半を占めることから指導者も含めて基本的な農業知識、農作業用具や機械等の取扱い方などを学び、安全に農作業を行うことが課題となっています。	栽培技術の習得と作業ポイントの見える化 年間を通じた作業と収益の確保 人材育成	障がい者用の作業ポイントのマニュアル化 新規作目の検討 加工品目の検討	H28.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	花と緑と水の里農産物直売所	津市高野尾地区における直売所等の整備による地域活性化	サツキ等の街路樹用の植木栽培が盛んでしたが、需要の減少、価格低迷により栽培面積が減少し、畑の遊休農地化が進んでいます。また兼業農家が多く、米等の農産物の価格低迷から農業収益は減少している一方農業機械・資材の高騰、後継者不足、農外所得の減少も加わり、地域の農業生産の継続が難しくなっています。	地域の交流人口の増加と新たな雇用の場の創出を図り、魅力ある地域づくりにつなげる。 農業を軸とした地域振興の基盤づくり 花文化の拠点として集客が図れる地域づくり	農産物の直売所等の整備 「食べる花」等の栽培	H28.3
松阪	松阪市	JA松阪 梨研究会	松阪梨研究部会の存続を賭けた後継者育成大作戦	近年高齢化による部会員及び面積の減少が著しく、部会の維持に赤信号が点灯している。後継者の候補はいるものの「栽培知識・技術不足」が後継を妨げていることが明らかとなると同時に後継候補者は家族からの技術伝承や部会活動の参加を億劫に感じており、後継者のみで学べる場が必要である。	ニーズに対応した販売体制の検討 後継者が学びやすい環境の整備	マーケティング調査の実施 新規販売体制の検討 初心者講習会の実施 年2回	H27.12
松阪	松阪市	波瀬むらづくり協議会	遊休農地再生・クレソン栽培を通じた地域の活性化	協議会の産業部で、遊休農地の再生とクレソン栽培を通じた農業所得向上の取組を担っており、これまで自主的に生産・販売を進めてきたが、平成26年度に初めて病害虫による被害が多発したため、今後計画的に栽培面積を拡大していくに当たり、これまでの栽培ノウハウに加え、技術的な裏付けを得て安定生産を確保していく必要が生じています。	遊休農地の再生と活用を図り、景観を保全 クレソン等の栽培拡大を図り、農業所得を向上 波瀬のクレソンの知名度向上 食育の教材としての活用	県外栽培事例収集 先進地視察 実証ほの設置 栽培技術研修会・情報交換会	H27.6

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	松阪市	農事組合法人 市場庄忘れ井の里	農事組合法人 市場庄忘れ井の里	農家の高齢化で農地の管理が困難となりつつあり、法人へ農地を預けたい希望が徐々に増えてきている。今後はオペレータのかくほや畔草の管理等が課題となっている。また、米価が低迷している中、米主体では今後の経営が厳しくなることが予想され、新たな作物の導入等を含め、安定的な経営の確立が必要である。	水稲、小麦、大豆の収量及び品質の向上 オペレーターの育成 新規作物の生産	集落営農研修会の参加 年1回 利用集積 25ha 農地の活用 遊休農地0 新規品目の導入検討 年5回	H28.2
松阪	松阪市	十八共生会	持続可能な営農活動の実施と地域の環境保全、地域資源の活用による活性化	水利権の供給期間と供給量の関係から、作期の分散や飼料米への取組が困難な地域であり、需給に見合った品種の選択や労力の分散が難しい状態にあります。また畑地においても、高齢化や後継者不足により耕作放棄地とならないような、受託体制や生産体制の構築と、組織の後継者育成が課題となっています。	中間管理機構の制度を取り入れた水田及び畑地の集約を図る。	集落営農推進大会への参加 利用集積目標 20ha 大豆の作付検討 10ha 野菜等の新規品目の導入	H28.3
松阪	多気町	多気町勢和地域資源保全・活用協議会	立梅用水を中心とした地域を守る小さな拠点づくり	地域には下記のような課題があります。 ・人口減少と高齢化 ・農家の高齢化による離農、後継者不足等による遊休農地の増加 ・高齢者の居住環境、独居老人の増加 ・立梅用水の管理	生活サポートサービス (獣害パトロール、防災パトロール、立梅用水管理) 生活サポートサービスを支える収益事業の実施	獣害、防災パトロール等の実施 都市農村交流事業の実施 企業農村連携事業の実施	H28.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
松阪	多気町	ななほし会	有機農産物の生産拡大と豊かな暮らしの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地元における有機農業、有機農産物の認知度が低い。 ・より安定して有機農産物を生産する栽培体系を確立する必要がある。 ・新技術や新品種の情報が極めて少ない。 ・獣害が拡大しつつある。 	安定して多品目の有機農産物を生産する栽培技術の向上を図る。 消費者、実需者に対して、会員が取り組む有機栽培に係る情報発信力を高める。 担い手の育成、確保に貢献する。	新たな有機農産物の導入 1品 / 年 生産性の向上 土壌分析診断 12回 / 年 有機栽培に取り組む研修の受け入れ 1名 / 年	H28.2
松阪	明和町	JA多気郡 いちご部会	いちご産地活性化への取組	高齢化・後継者不足により栽培面積の減少や離農が進んでいる。大台町・多気町においては、獣害の被害も見られ、地域の深刻な問題となっている。	安心安全ないちご栽培を実践し有利販売を維持 生産性の向上を図り、収益性の向上を目指す 新規生産者が栽培を続けられるよう、研修先等を整備し栽培技術を継承	栽培面積の維持・拡大 3.2ha 病害虫防除対策の強化 54t 56t 販売対策の強化	H28.3
松阪	大台町	奥伊勢エゴマ倶楽部	獣害に負けない地域特産品開発で、農地と地域を守る	町全体の90%を山林が占める中山間地であり、経営規模は零細で、農業就労者の高齢化と後継者不足が著しくなっています。さらに近年獣害の拡大が顕著となり、農業生産への意欲減退と耕作放棄地増加に拍車をかけています。	獣害に強く、環境負荷の少ないエゴマ栽培の振興を図る。 収穫物は、最も有利販売できる「エゴマ油」への搾油加工を進め、直売所などで販売を進めます。	町内栽培状況調査 0回 5回 先進地視察 0回 1回 栽培技術研修会 0回 4回 料理レシピの作成	H28.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	大台町	弥起井倶楽部	農地をまもる弥起井野菜プロジェクト	高齢化と後継者不足が進んでおり、遊休農地が増大しています。会員全員が、無理をせずに農業に親しむことをモットーに活動を行っており、ボランティア活動が多いため、農地を守る活動を継続して実施するために、収益の確保と分配ができることが必要となってきました。	遊休農地拡大を防ぎ、再生を図る。 地域ぐるみでの野菜栽培の継続 計画的な作付により、野菜生産量の増大 道の駅への出荷 野菜収穫体験による地域コミュニティの確立	栽培マニュアル、曆等収集 主力野菜の生産地先進地視察 実証ほの設置 栽培技術研修会・情報交換会	H27.10
伊勢	大紀町	打見営農組合	打見地区の集落営農組織の機能充実による農地の保全と集落機能の活性化	農地は高低差があり、法面が広い草刈りなど管理作業に大きな労力を要している。農家の高齢化が進んでおり、個々の農家では、水田管理が困難になってきている。また、用水路が長く、山間部を通過することから、維持管理に多大な労力がかかっている。	集落営農組織の設立による集落機能の活性化	「人・農地プラン」の策定 担い手の育成 地域こだわり農産物の生産実証	H27.11
伊勢	鳥羽市、志摩市	JA鳥羽志摩特別栽培米コシヒカリ部会	鳥羽志摩農業協同組合特別栽培米コシヒカリ部会による『珠光』の生産・販売力の向上	谷地田等の条件不利地が多く、高齢化、販売価格の低迷に伴い、生産者及び作付面積が減少し続いています。谷地田等での耕作放棄により、平地での獣害被害が増えています。	販売力の強化 安全で安心できるお米づくり 地域ぐるみの獣害対策の実施 多様な仲間づくり	出荷数量 2,606俵 2,800俵 種子更新100%実施 生産履歴の記帳 統一した水稻資材の使用 イベントへの積極的な参加	H27.11

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
伊勢	玉城町	伊勢ヒートポンプ導入組合	ヒートポンプ利用による燃油使用料削減と経営安定	施設栽培において、冬季の暖房対策は終了確保や品質向上の面において重要となっていますが、近年の燃油高騰により、燃料費が増えるため燃油の使用を控え、収量低迷や品質低下の一つの要因となっています。	ヒートポンプを利用した効果的な栽培方法の確立 燃料費をより削減する利用方法の検討	収量及び品質の向上 燃油使用料の62%の削減、燃料費の削減	H27.12
伊勢	南伊勢町	大江青ねぎ振興	南伊勢町大江區 青ねぎに託す大江區の未来 温暖な気候を生かした青ねぎの産地化による働く場の創造	厳寒期の冷たい季節風や、夏場の高温、病害虫の発生により、青ねぎの生育が停滞し出荷量が減少することが産地としての課題です。	生産体制の確立(栽培技術、機資材の整備) 生産基盤の整備 生産者の確保	作付面積 1.3ha 3.0ha 耕作放棄地の再生面積 0.38ha 2.0ha	H28.2
伊勢	玉城町	アグリ果樹部会	梅・アズの新品種の生産および加工品の開発による農産物直売所の活性化	特産品につながりそうな品種として、梅品種「露茜」、アズ品種「おひさまコット」を導入しました。課題は、加工品の開発・販売、生産計画の作成、栽培技術の情報収集および安定生産のための技術習得があります。	「露茜」、「おひさまコット」の生産体制の強化 果実の販売・加工品開発 他の新品种の導入検討	生産量 0kg 300kg 加工品開発に向けた試算、試作販売	H28.2

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊勢	伊勢市	JA伊勢 トマト部会	トマト・ミニトマト及び施設園芸の新規就農者確保による産地の活性化	これまで、栽培技術の向上に努めながら新たな品種や栽培方法の導入に取り組んできましたが、部会員の高齢化、後継者の農外への就職により、部会員の栽培意欲に影響が出ており、市場への安定出荷、産地縮小に不安を抱えています。	空き施設利用体制の構築 新規就農者の大きな負担となっている栽培施設や暖房器等の機械の初期費用の低減と離農による既存の空き施設の処分までを含めた利用促進を図ります。	部会員の所有する施設等のリストアップ 施設の活用方法の検討 新規就農者の育成方法の検討	H28.3
伊勢	志摩市	南張営農組合	南張地区営農組織の法人化による水田農業の再構築と担い手の確保	農家の高齢化、後継者の地区外移住により担い手不足が深刻となっている。また、獣害対策や農用地の管理をする担い手確保が課題となっている。 営農組合の経営は順調であるが、法人化されておらず法人化のメリットや認定農業者の支援策等が受けられていない現状である。	営農組織の法人化 担い手の確保と法人経営の安定化 農用地の保全管理	営農組織の法人化	H28.3
伊賀	伊賀市	伊賀・島ヶ原おかみさんの会	おもてなしの心でマルシェを開催、地域の活性化と集客交流につなげる。	近年の生産者の高齢化と後継者・担い手不足は深刻化し、獣害問題も加わって、耕作放棄地の増加を招き、地域にとって大きな課題となっています。	喫茶・軽食でのメニューや加工品の充実 農産物や加工品を販売 地元生産者や製造過程が見えるよう、情報発信	集客数 3年後に現在の1.5～2倍	H27.10

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊賀	伊賀市	農事組合法人 生玉ファーム	西湯舟地区における農事組合法人を核とした農業の生産性の向上	営農組織の法人化を進めてきた中で、持続可能な安定経営ができるよう複数の後継者を定着させることが最大の課題である。また、悪条件のなかコスト削減の困難さを乗り越え、地域が一丸となって推進していく。	条件不利地での農業経営が可能となる取組を实践する。需要に応じた安定的な生産、安全・安心が確保できる、安定的な供給体制を構築する。	独自の販売ルートの開拓 ブランド化を目指した販売戦略の構築 収量の増加	H27.10
伊賀	名張市	JA伊賀南部 女性加工部会菜の花	地域の特色を生かした農産加工品の開発とブラッシュアップ	現在、会員が地場産及び農協新予約商品の食材を使って安全安心な農産加工食品づくりに取組んでいます。今後も販売商品の取扱いを増やし、より多くの方に喜んでいただける商品を提供するために、取組の継続と収益性の確立を目指していくことが必要です。	活動を通じて農村コミュニティの維持、地域資源の活用、旬の食材の大切さや農村生活の技術伝承を行うとともに、地産地消を中心として食の安全・安心を地域の人たちに提供し、地域全体としての発展、活性化に寄与する。	新たな農産加工品の開発 3件 既存農産加工品のブラッシュアップ 5件	H27.9
伊賀	伊賀市	農事組合法人 プロファームいなぐ	持続可能な安定的農業経営の確立と地域活性化に向けた農事組合法人の取組	ほとんどの農業者が赤字経営を続けており、全面委託を望む人が年々増加している。受託者も高齢化により減少しているなどの課題に対応するため設立した農事組合法人の経営を軌道に乗せ、健全な運営体制を構築する必要がある。	農地集積及び規模拡大の推進 米、麦、大豆の収量及び品質の向上 オペレーターの育成と技術力向上 露地野菜等の導入検討	経営面積 平成28年 平成32年 水稻 22ha 27ha 小麦 14ha 18ha 大豆 14ha 18ha 平均単収 平成27年 平成32年 水稻 480kg/10a 510kg/10a 小麦 200kg/10a 300kg/10a 大豆 0kg/10a 180kg/10a	H28.3

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊賀	伊賀市	一般社会法人 大山田農林業公社 、 農事組合法人 白鳳梨生産組合	伊賀のドライフルーツ	過去に地域活性化プランを策定した2団体が、農産物加工による収益力アップと梨の新商品として開発したドライナシの製造を本格化させるため、連携し取組みました。	一般消費者向け商品としてのドライナシの販売 生産工程や設備の改善 果実の品質確保	ドライナシ製造 30～40kg	H27.11
尾鷲	紀北町	紀北農業者の会	農産物直売所「さくらファーム」を核とした紀北地域の農業活性化	地域の過疎化・高齢化が進行し、地域農業を支える担い手が不足し、さらに近年は鳥獣害が大きな問題となっており、農業生産意欲の減退と耕作放棄地の増加が懸念され、農業者の確保、耕作放棄地の解消、獣害対策等が課題となっています。	直売所の運営改善 紀北農業者の会の活性化 地域特産物の掘起し セレベス(里いも)の栽培復活	セレベスの生産 農産物直売所の売上げ向上	H28.3
熊野	熊野市、 御浜町、 紀宝町	花咲パン工房 米粉普及推進組合	紀州産の米粉・青果物を活用したパンの販売事業による地域活性化	農産直売所では安全安心な国産原料を活用したパンの需要が高く、米粉等を使ったパンのニーズも高くなっていますが、硬質小麦の自給率は1%前後と極めて低く、消費者の需要を十分満たせていません。	地域内の米粉、県産小麦粉及び地元産の青果物を使った米粉パンは消費者のニーズにマッチする商品であり、製造販売を行う。 地元農家やJAから原材料を仕入れ、農家の所得向上に貢献する。	米粉パン製造の設備整備 米粉パン製造の技術習得 地域の食材を使った新商品開発	H27.10

地域活性化プラン一覧（平成27年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期									
熊野	紀宝町	紀宝町レンゲ米栽培部会	レンゲ米のブランド化	紀伊半島大水害から復興を果たしたものの、農業者の高齢化により離農が進むにつれ、当会への集積や作業受託が増加していますが、販路確保や米価低迷による農業収入の減少に苦慮しており、営農を継続するための販路確保が急務となっています。	「レンゲ米」のブランド化 栽培方法のマニュアル化 特別栽培米の表示への取組 販売促進資料の作成	<table border="1"> <tr> <td>販売量の確保</td> <td>現状</td> <td>平成31年</td> </tr> <tr> <td>給食用</td> <td>300俵</td> <td>250俵</td> </tr> <tr> <td>一般販売</td> <td>0俵</td> <td>300俵</td> </tr> </table>	販売量の確保	現状	平成31年	給食用	300俵	250俵	一般販売	0俵	300俵	H27.12
販売量の確保	現状	平成31年														
給食用	300俵	250俵														
一般販売	0俵	300俵														

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農業基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122